



発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷株式会社

コロナを吹き飛ばせ201発の花火



9月11日、鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭が行われた。コロナウイルス感染防止のため、神輿のきおいは自粛となったが、花火が盛大に打ち上げられた。なお、松尾小学校グラウンドに本部を置き、年番の水城区が警備に当たった。

風船ふわふわぐるぐる 夏休み出張サイエンス

8月4日、松ぼっくり、松尾児童センターで、夏休みに児童センターに通う1年生から3年生の児童を対象にサイエンス教室が開かれ、松ぼっくり85人、児童センター35人が参加した。飯田市おもしろ科学工房と松尾サイエンスのスタッフが講師を務め、コロナウイルス感染防止対策のため、換気を良くし、2回に分けての開催となった。

「この風船、2個同時に浮くと思う？」講師を務める三浦宏子さんの問いかけに「浮く」「落ちる」「1個だけどっかいっちゃう」「2個とも浮く」と予想する児童ら。サーキュレーターの上で、2個の風船が浮くと「わーすごい」と歓声が上がった。この後、スタッフ手作り



ようこそ松尾へ
水城区 川手翔太さん 祥子さん
裕翔くん 智矢くん 望結さん

子供たちの元気な笑い声が響き渡り、その周りで大人たちも笑いあう、そんな子育て世代が多く住む分譲地に、1年半前に引越してこられたご家族にお話を伺いました。



Q お二人の出身地はどちらですか？
A 翔太さん 飯田市下久堅です。祥子さん 下伊那郡松川町です。
Q お二人の出会いには？
A 共通の友人の紹介でした。
Q なぜ松尾に住むことを選択されたのですか？
A 以前は八幡町区のアパートに居たので

Q 新居に引っ越された感想は？
A 周りの方たちがいい人ばかりで、隣近所には同世代の子供も多く、我が家の子供たちも毎日楽しく遊ばせてもらっています。また、買い物の便なども良くてとても住みやすいです。
Q 最近の家庭内ブームなどがあつたら教えてください。
A 子供たちはポケモンやブレイブボードにハマっています。
Q コロナ禍でも影響なしですか。(笑)
A 今後の松尾に期待することがあつたら教えてください。
A 特別ありませんが、より子供たちにとって住みやすい所になると良いですね。
お忙しい中ありがとうございました。

記録的な大雨
道路陥没、農地法面崩落も

長雨が続く今夏。8月1日には飯田市西部付近で1時間に110mmの猛烈な雨が降った。災害が発生する危険が迫っていることから、気象庁は「記録的短時間大雨情報」を発表して安全を確保するよう呼びかけた。13日から15日にかけては、飯田市(アメダス)が、累加雨量292.5mm(8月平均雨量149.4mm)を記録した。この間、松尾地区では人的被害や住家の破損はなかったが、道路の損傷や河川、農地の損傷に見舞われた。お盆休み、各対応に追われた人もいたことだろう。

8月13日~15日にかけての大雨への対応状況 (飯田市報道発表資料より)

- 発表・対応状況 (松尾地区に関わるものを抜粋)
8月13日(金)
6:12 洪水注意報 発表
6:27 大雨注意報 発表
22:00 松川ダム 毎秒最大170m³/s 予備放流
22:36 大雨警報(土砂災害) 発表
23:03 洪水警報 発表
8月14日(土)
0:20 小渋ダム89.57m³/s放流
1:40 土砂災害警戒情報 発表
2:20 天竜川水防警報(準備)天竜峡11.30m
2:30 天竜川上流氾濫注意情報
3:20 天竜川占有物の引き上げ依頼(センター長)
8:35 毛賀1461-9付近道路陥没交通規制
19:32 金色洞川樋門閉鎖
22:00 金色洞川内水排除
22:50 強雨につき金色洞川市ポンプ6基開始
県ポンプ4基組み立て開始

- 23:10 伊久間水位計1.71m記録(氾濫注意水位1.70m)
23:30 金色洞川 県ポンプ4基運転開始(計10基運転)
8月15日(日)
0:30 金色洞川オーバーフローに伴う非常線対応
第5分団 自動車1隊、載積車1隊 出動
1:00 天竜川氾濫注意情報 警戒レベル3相当情報(洪水)
3:00 金色洞川ポンプ車10台対応
道路排水完了
祝沢川 国2台、市2台でポンプ車準備
4:40 天竜川上流氾濫注意情報 警戒レベル4相当情報(洪水)
8:20 天竜川上流氾濫注意情報 警戒レベル2相当情報(洪水)
16:30 祝沢川ひ門 ポンプ車撤収完了
20:50 金色洞川ひ門 ポンプ車撤収完了
21:50 土砂災害警戒情報 解除
8月14日(土)
18:00 警戒レベル3 高齢者等避難
市内全域の土砂災害特別警戒区域1108世帯 3302人
23:10 警戒レベル4 避難指示
上村・南信濃地区を除く市内全域の土砂災害特別警戒区域925世帯2910人
8月15日(日)
16:30 全ての避難情報解除



水に浸った新松尾マレットゴルフ場

松尾の人口
男子 6,168人
女子 6,709人
計 12,877人
世帯数 5,226世帯
8月末現在

松風
この夏も豪雨
災害のニュースが連日のように伝えられた。地球温暖化の影響からか、ここ数年豪雨災害の発生頻度が高まっているように感じられる。7月には熱海市で大規模な土石流が発生して多くの人命が奪われた。8月には西日本を中心に豪雨災害が発生し、県内でも岡谷市で3人の命が奪われるなど、各地で大きな被害に見舞われた。肉親を亡くした悲しみや家を失った切なさ、元通りの生活を取り戻すまでの辛苦は、被災した経験のない者には計り知れないものがあるだろう。▼三六災害で被災した子供たちの作文をまとめた「濁流の子」という文集がある。災害当時高校生だった確田栄一さんが作品集めに苦労の末、昭和39年にガリ版刷りで発行したものだ。子供たちの方言のままの飾らない文章は、悲惨な状況がストリートに伝わってきて、涙を禁じえない。インターネットで「濁流の子」天竜川上流河川事務所」で検索すれば、一部の作文が閲覧できる。▼地震や台風などの自然災害の発生を防ぐことが困難なだけに、過去の経験を生かし、被害を最小限にすることが大切だ。

花火

明区で、8月8日に花火の打ち上げが行われた。「新型コロナウイルス感染拡大に伴って観覧していたくようお

防止のために、密な状況での観覧を避け、打ち上げ場所に参集することなく、自宅付近の花火がよく見える場所、人との距離を保つ

また、地域の方からも「とても良い花火だった」と喜びの感想をいただき、やって良かったと思つた。多くの皆様のご理解とご協力をいただき、実施で

2年振りとなるいい大人形劇フェスタが、8月6日午後7時から松尾公民館で行われた。開場の20分前には、人が集まるか心配なくらいだったが、徐々に用意した椅子では足りなくなるほどで、開演時には1000人余りの入場があった。

「人形劇団なむなむ」は男性1人で演じる劇団。最初は、紙芝居の舞台を使つた人形劇「妖怪あぶらとり」としべえさんききいっば

つ」を上演。ずくなし男の虫歯が痛くて食べられない。チュウに虫歯を抜いてもらうことになるが、「前に見たことがあるが、楽しかったので、もう1度見たくて来た。2度目でも楽しくてたくさん笑つた」と明区の橋場咲恵さんは話した。

久しぶりの人形劇フェスタは、皆楽しく満足した様子だった。



公民館公演



スケッチ

お宝GETだぜ！
8月1日、松尾小学校PTA毛賀支部主催の夏のイベント「トレジャーハンター」が毛賀諏訪神社境内で70人余の小学生が参加して行われた。これまで子供たちが夏休みのこの時期、夜の時間帯に「肝試し大会」を開催してきたが、新型コロナウイルスの影響で昨年は中止。今年には感染対策を念頭

に、日中楽しめる新たな企画として宝探しゲームを考案した。これは神社の隣にある毛賀区民会館を待機場所として、子供たちが各学年ごとに分かれて境内の中に隠されたカプセルを探しに行き、会館に戻って、中に入れた札の番号の賞品と引き換えるというもの。カプセルを隠す役は6年生は、低学年の子にはすぐに見つかる場所を選んだり、高学年には見つけづらい樹木の穴の中に入れてたりと工夫を凝らして

ていた。真夏の太陽のもと、子供たちは元気に境内に向かって駆け出し、大きな石の裏側、木の根元、灯籠の陰などを探し回り、カプセルを1つずつ手にすると冷房の効いた区民会館へと戻っていった。5年生の番になる頃には難度の高い隠し場所が残り、なかなか見つからずPTA役員に助けを求めながら見つけていた。伊藤英樹支部長は「コロナ禍でも何かイベン



久井区

久井集会所ディスプレイコラボ企画

久井集会所において、2つのディスプレイ企画が同時進行した。文化部によるイルミネーションは、今年も市瀬和寛文化部長宅の作業場に7月初めより週2回文化部員が集まり、3密を避け、少人数で交代しながら製作した。部員も

コロナに負けるなイルミネーション

一方小学生による七夕飾りイベントも行い、子供たちはとても楽しい時間を過ごしていた。田中重輝PTA支部長は「久井区は人数、戸数が松尾地区で一番少なく、行事を行う事もコロナ禍も含め大変だけど、子供たちが楽しみながら、行事を継承して行く事も必要と思ひ区長に相談しながら、コロナ感染に細心の注意をしての実施となった」と話した。コロナ禍で各行事も行えず、文化部会で話し合

り、8月7日から14日まで小学生が短冊に願いや思いを書き、集会所玄関に用意した箱に結び付けた。飾り付けた七夕飾りは、「区民の皆さまも吊るしに来て下さい」と回覧板で知らせ、8月14日まで飾り付けをした。7日には集会所の中でビンゴ大会などお楽し

みイベントを行い、子供たちはとても楽しい時間を過ごしていた。田中重輝PTA支部長は「久井区は人数、戸数が松尾地区で一番少なく、行事を行う事もコロナ禍も含め大変だけど、子供たちが楽しみながら、行事を継承して行く事も必要と思ひ区長に相談しながら、コロナ感染に細心の注意をしての実施となった」と話した。コロナ禍で各行事も行えず、文化部会で話し合



城區

城壯年会 歓喜スリッパ卓球で班交流会

城壯年会は今年度、新入会員7人を迎え、会員数95人の10班で活動している。7月4日の班交流会では、「如何に楽しく、熱く、職員同士の繋がりを築くことができるか」を考え、初めて「スリッパ卓球大会」を松尾小学校体育館で実施した。毎年、この時期には班交流会で会員同士の親睦を深めているが、昨年度はコロナ禍で行事が出来ず、2年ぶりの開催となった。手袋をして、ラケットの代わりにスリッパを持ち卓球の試合を開始。始まってみると、スリッパで小さな球を打つことに苦労し、思うようにいかないもどかしさで悲鳴に似た声が上がっていたが、次第にコツをつかみ、点を取り合う珍プレー好プレーに変わっていった。

各5試合のリーグ戦で順位を決定する予定であったが、全勝チームが2チームになったため、急遽直接対決の決勝戦を行った。決勝戦では皆が見守る中、初めてとは思えないスリッパ卓球の技が飛び出した。夢中になるあまり、会員同士が熱くなって争う場面では、警告のため壮年会長からイエローカードが出る一幕があった。

仲村淳次城壯年会長は「コロナ禍で、可能な限りの行事を実施し、会員相互の繋がりを大切に活動していきたい」と語った。

2年ぶりの開催となった。手袋をして、ラケットの代わりにスリッパを持ち卓球の試合を開始。始まってみると、スリッパで小さな球を打つことに苦労し、思うようにいかないもどかしさで悲鳴に似た声が上がっていたが、次第にコツをつかみ、点を取り合う珍プレー好プレーに変わっていった。

各5試合のリーグ戦で順位を決定する予定であったが、全勝チームが2チームになったため、急遽直接対決の決勝戦を行った。決勝戦では皆が見守る中、初めてとは思えないスリッパ卓球の技が飛び出した。夢中になるあまり、会員同士が熱くなって争う場面では、警告のため壮年会長からイエローカードが出る一幕があった。

仲村淳次城壯年会長は「コロナ禍で、可能な限りの行事を実施し、会員相互の繋がりを大切に活動していきたい」と語った。

上溝区 上溝おもしろ科学教室

7月11日、上溝集会所2階大広間で「上溝おもしろ科学教室」が参加者32人で行われた。松尾サイエン

スからは、講師に木下徳康さん、ス

タッフとして下條啓市さん、別所映

子さんが協力。

まずは偏光フイルターを使ったサイエンスショーから始まった。5人の分館委員が記

号の描かれたカードを掲げ、目隠しをされてどれが選ばれたのか知らない分館長に、それを当ててもら

う。魔法のメガネと呼ぶ偏光フイルターを通して見る

と、他の4枚は真っ黒になり、1枚だけ記号が透けて見える。その科学的な種明かしを木下さんがわかりやすく解説してくれた。

工作コーナーでは、CDの中心の穴にビー玉をはめ込むと、それが軸になって回るコマを一人一つずつ作り遊んだ。まずは渦巻き模



見て見て色が変わるよ

7月25日、松尾マレット祭

同好会主催のマレット祭が天竜川河川敷の新松尾マレットゴルフ場で開かれた。

午前、同会の少年クラブの子供たちを中心に約30人の参加で、ホールインワ大会が行われた。初参加



参加した。

同会の伊原公彦会長は「コロナ禍で様々なイベントが中止となる中、子供と大人が一緒に楽しむ場を設けることができよかったです。これをきっかけにホールインワ大会が親しんでくれる」と語った。

常盤台区 久しぶりに皆で花火！



みんなと花火 久しぶり

8月7日午後7時より常盤台区公園で、小学生30人を含む総勢80人ほどで納涼祭が行われた。

福井公文常盤台区長は「昨年はコロナで納涼祭が出来なかった。今年もかなり迷ったが、花火だけでも楽しんで欲しいと小学生の参加で企画した」と語った。

参加者はマスク着用、受

付ではアルコール消毒、体温測定、飲食の提供はなしと、感染予防を徹底した。

また、万が一に備えて、消防車も配備されていた。

平沢利夫分館長の挨拶の後、子供たちは手持ち花火に火を点け、花火大会が始まった。

これだけの人が集まるとの会は久しぶりで、「友だちと一緒に楽しい」「花火怖い」などの声が笑い声とともに響く中、20分ほどの時を過ごした。

その後、毛賀区の「打舞会」による打ち上げ花火。アンパンマンの音楽がかか

る中アンパンマンの仕掛け花火や、ナイアガラも披露され、最後は盛大にスターマインが打ち上げられた。

「すごい」「きれい」とたくさん声。保護者からは「手持ち花火でも十分だと思っていたが、地区でこんなにすごい花火は見たことがない。あの夏はすごかったと思いい出になる」との声があった。

最後は「打舞会」の会員に全員でお礼を言い、納涼祭の幕は閉じた。

明区 コロナに負けるな

うな「納涼夏祭り」を開催するとは難しい。そこで、明地区の皆さんに、少しでも夏祭りの楽しい雰囲気味わっていただくためと、コロナ禍にあっても元気で頑張っていた

だきたいという願いも込めて、「コロナに負けるな花火」を企画した。

また、感染拡大



オリンピックカラーの花火も

夕方から断続的に雨が降り天候が心配されたが、打ち上げの後8時頃には雲の切れ間から星も出始め、予定通り盛大に花火の打ち上げを行うことができた。

煙火会社さんには、オリンピックに合わせた五輪の花火など趣向を凝らした100発以上の花火を上げていただいた。

「きたことに感謝です」(松田智治明分館長談)



2年ぶりの大会に喜び

代田区



さあ、打つぞ

7月11日、新松尾マレットゴルフ場で、代田マレットゴルフ大会が行われた。

2年連続で雨天中止となっていたため、3年ぶりの開催となった。今年も雨

天が続き心配されたが、当日は晴天に恵まれ、40歳から89歳までの40人(11組)が参加した。

代田区内の大会ということで、交流を一番の目的に、

組み合わせは年齢層が偏らないよう考えられ、終始なごやかな雰囲気の中で競技に汗を流した。

平松正好代田区長は「コロナウイルス感染症の心配もある中、みなさんとコミュニケーションをとることが出来てうれしく思います」と話した。

毛賀区



入れ！入れ！！

7月18日、2年ぶりとなる毛賀区の区民マレットゴルフ大会が、新松尾マレットゴルフ場で開催された。

当日は朝から好天に恵まれ、この大会を待ち望んだ参加者も晴れ晴れとした笑顔で現地に集合した。

役員を含む25人の選手をくじ引きで8つの組に分け、それぞれのスタートホールに移動すると、会場

のあちこちから元気な声が上がっていた。

日頃からマレットを嗜む参加者が多かったため、好プレーを連発。ホールインワン賞3本、イーグル賞2本、中にはホールインワンとニアピン2つの賞を手にする選手もいて準備した役員たちも驚いた。

27ホールで争われ、白熱した優勝争いは2選手のプレーオフによって決し、優勝、準優勝、3位までの選手にトロフィーが贈られた。

八幡町区



賞品を受け取る伊藤秀夫さん

7月25日、八幡町区マレットゴルフ大会が、2年ぶりに八幡山マレットゴルフ場にて開催された。昨年

はコロナウイルス感染症の影響で中止となったが、感染予防対策を徹底した上で開催した。コースの整備は、

前日壮年会など地区民が協力して丁寧に仕上げ、当日は25人の参加で和気あいあいとした雰囲気の中で行

われた。珍プレーも出る中、ホールインワンも出て盛り上がり。54と素晴らしいスコアで伊藤秀夫さんが優勝し、豪華賞品を受け取った。大会を主催した桐生康之助分館長は、「なかなか皆さんと会える機会が無かったが、久しぶりに皆さんに会えて楽しむことが出来て良かった」と喜んで

特集

三六災害から60年 松尾区民が体験を語る



緑ヶ丘中学校グラウンドに降りる自衛隊ヘリコプター



木下 懿都子さん

代田区の木下懿都子さんに当時のことを教えてもらいました。木下さんは夏休みの寺子屋で子供たちに体験談を話しています。

「三六災害に思う」

60年前の6月、伊那谷を襲った大災害は、この代田区にも大きな爪痕を残しました。私の家は国道151号

線沿いの代田区の間にある。家の裏は田畑があり、すぐ代田山です。折井が流れており、その水がすべて土砂で塞ぎ止

は、高校生の娘さんとお母さんがおられて、二



九十九折井より下



崩落した代田山



平栗 健志さん

「水が徐々に浸いてきて、気が気でなかった。ブタを20頭ほど飼っていたが近所の人を頼んで畜舎から避難させた」そう語る清水区の平栗健志さんは当時32歳だった。当時の天竜川の堤防は高さがなく脆弱なもので、堤防の決壊と水位上

昇による浸水で河原は水に浸かった。「田植えが済んだばかりの田んぼがだめになった。幸い家の田んぼは土砂や瓦礫には覆われなかったので、親戚から苗をかき集めて植

え直すことができた。泥水に浸かった田んぼはドロドロで、田植えも稲刈りも大変な苦勞だった」

清水区内で金色洞川が氾濫。その年、土砂が入った田んぼでは収穫が出来なかった。そして土

地を改良するため、河原に2、3mの厚さで土が入れられた。災害後、石を収集、運搬し、蛇カゴを作る作業が天竜川沿いに土地を持つ者に割り当てられ清水からも10〜15人が出た。何度も水害を経験してきた平栗さんは最後に「三六災害が一番シロツクだった。被災するとい



塩沢 勉さん

新井区の塩沢さん、当時は新婚で、明区に新築した家は水害を考え基礎を高くして、これなら流されないと考えていました。

「6月27日の夜、毛賀

沢と祝沢の状況を消防団員として確認に行き、帰宅後すぐに毛賀沢方面からの逆流で浸水が始まりました。

飼っていた豚を自宅屋根の上に、乳牛は浸水していない場所へ移動しましたが、逆流は午後7時〜10時までに家の鴨居まで来る勢いで、家の天井板を破って屋根裏へ家財を上げました。

11時頃水位が膝まで下がり、(大鹿村の大山の崩壊で一時天竜川の水量が減ったのか)その時ボートで救助隊が来て一安心でしたが、翌28日朝、8時〜8時30分頃天竜川の堤防が切れて今度は土砂が腰丈まで押し寄せてきました。

被災直後から地元住民、消防団、共産党青年部らが土砂の撤去をしてくれ、その後の高度成長期の波に乗って数年で復興できたが、この時の松尾全体が一丸となった」と振り返った。



秦野 善彦さん

三六災害について、明区の秦野善彦さんにお聞きしました。

「27日は朝から雨でし

たが、天竜川へ魚取りに出かけた。昼前頃から今まで経験した事のない豪雨となった。対岸が全然見えなくなり、水面に跳ねる雨が顔を打つほどの降りになってきた。これは普通ではないと感じ、急いで帰宅すべく堤防に上がって驚いた。すでに

明地区の中溝川付近は、上段の段丘から溢れた多量の雨水がはけ切れ

ず、一面の湖となり、思井川の増水も加わり、明の辻付近の家屋は床上、床下浸水となった。さらに、天竜川の増水によるバックウォーターが発生し、28日早朝には堤防が決壊し、大菩薩の森へ激流が向かった。明集会所下まで浸水し沢山の家屋や家財が流失した」

三六災害の教訓につ

いては「誰の指示があつたわけでもなく、地域住民が集まって救助活動をした。命を守るには共存と共助の精神が大切なことと、自分が住んでいる地域や場所がどんな災害が想定されているかハザードマップ等で知っておくことが、いざという時に役立つ」と教えていただいた。



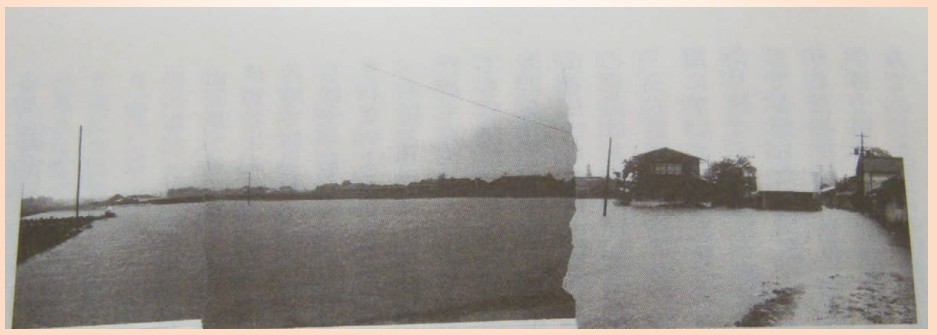
当時の八十二銀行横(現在の天音食堂)



当時の大塚家前(現在のやまいるゲストハウス)



上空から見た松尾(松川と天竜川)



中溝川の氾濫